

寛容性とまちづくり

～「場の力」 「ウォーカブル」 「寛容性と多様性」～

筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センターアドバイザー
(前内閣府地方創生推進事務局長)

青木 由行

令和5年3月30日

都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会

検討開始時の二つの問題意識

○ コンパクトシティ施策の誤解の是正とバージョンアップ

投資を抑制し、都市経済・社会を縮小させる施策という誤解

人口減少に立ち向かい、地域の消費、投資、雇用を生み出し、健康寿命を延伸し、孤独・孤立を防止して、豊かな生活の実現を目指す

○ 都市の国際成長力、産業競争力を生み出す都市再生施策のバージョンアップ

内外のクリエイティブ人材が集まり、交流することでイノベーションを生み出す新たな戦略



内外の成功事例等をもとに、多くの方々と議論を重ねてたどり着いた結論が、二つとも「人間中心のウォーカブルなまちづくり」だった。（2019年6月）

「人間」の普遍的な特性に立ち戻る（長年の進化の結果？）

歩きたくなるまちなか ≠ 歩いて暮らせるまちづくり

⇒ 「人間」の普遍的特性を踏まえた空間づくりに立ち戻る



○ **ゆっくり（時速約5km）前方に歩き、前方と左右を見る（地上の敵を警戒）**

上方はあまり高い角度では見上げない（遠方の高いものは目に入る）

通常は、目の高さあるいはやや下方を左右にわたって見る

○ **数メートル歩いて景色に変化がないと不快、苦痛を感じ始める**

20～30メートル景色が変わらないと歩く意欲を失う

○ **目的のない歩行距離は4～500m（それ以上は、他の動機、目的が必要）**

楽しい出来事、変化する楽しい景色、立ち止まれる場所、座って休める席があれば歩行距離は伸びる。

○ **人がいるところが好き 人を見るのが好き（ヒトは群れて生き延び、進化した）**

人が人を呼ぶ（賑わいの自己増殖）

人目があると安心

群れからはぐれたと感じると身を守る反応（緊張状態、過剰な攻撃性など）

○ **隅、端、凹が好き（安心、落ち着く）**

人間中心のウォーカブルなまちづくり

居心地が良く歩きたくなるまちなか（イメージ）

Walkable

歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたい、歩きたくなる。

Eye level

まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

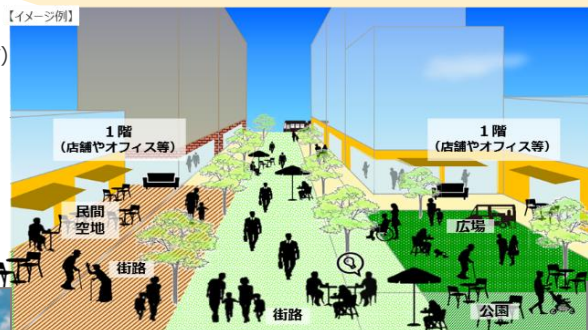
Open

開かれた空間が心地良い

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化
民間敷地の一部を広場化（宮崎県日南市）

【イメージ例】



駅前のトランジットモール化と広場創出（兵庫県姫路市）



道路を占用了な夜間オープンカフェ（福岡県北九州市）

2つの開発の調整により
一体整備された神社と森（東京都中央区）



公園を芝生や民間カフェ設置で再生（東京都豊島区）

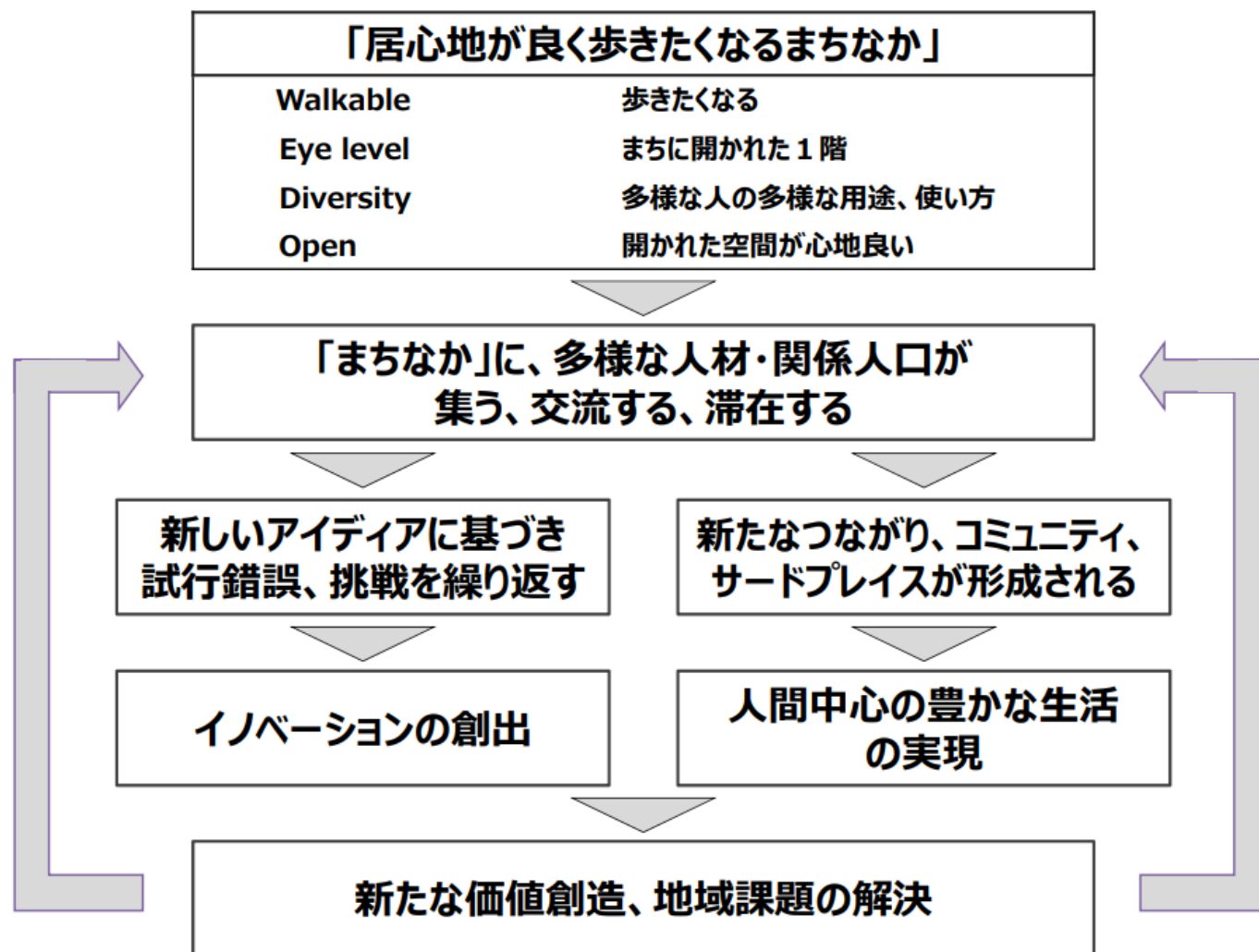


都市構造の改変等

- **都市構造の改変**（通過交通をまちなかへ誘導するための外周街路整備等）
- **都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成**
- **拠点と周辺エリアの有機的連携**
- **データ基盤の整備**（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能

なぜ、人中心の「まちなか」づくりが必要なのか？



「地域消費・投資の拡大」「雇用の創出」「産業の高付加価値化」「エコシステム形成」「都市の国際競争力強化」
「国内外観光客の増加」「UJイターンの促進」「健康寿命の延伸」「孤独・孤立の防止」「空き地・空き家の解消」

ウォーカブル推進都市一覧(令和4年9月30日時点)

○ **334都市**が“WEDO”*の考え方に共鳴し、政策実施のパートナーとして、ともに具体的な取組を進めている。(令和4年9月30日時点)
○ **73都市**がウォーカブル区域(滞在快適性等向上区域)を設定。
* Walkable(歩きたくなる) Eyelevel(まちに開かれた1階) Diversity(多様な人の多様な用途、使い方) Open(開かれた空間が心地よい)

令和4年6月末までに、都市再生特別措置法に基づく滞在快適性等向上区域を設定した市町村(既に都市再生整備計画の期間が終了した市町村を含む)：

北海道	鹿角市 由利本荘市	下野市 上三川町	流山市 八千代市 酒々井町 白子町 長柄町	多摩市 稲城市	あわら市 越前市	下田市 湖西市	明和町	大阪狭山市 阪南市 熊取町	岡山県	内子町	大分市	
札幌市 函館市 旭川市 室蘭市 釧路市 千歳市 北広島市 黒松内町 栗山町 沼田町 東神楽町 上士幌町	山形県 山形市	群馬県 前橋市 館林市	東京都	神奈川県 神奈川県 横浜市 川崎市 相模原市 鎌倉市 逗子市 厚木市 大和市	山梨県 甲府市	愛知県 名古屋市 豊橋市 岡崎市 一宮市 瀬戸市 半田市 春日井市 刈谷市 豊田市 安城市 蒲郡市 犬山市 新城市 東海市 大府市 知多市 尾張旭市	滋賀県 大津市 彦根市 草津市 守山市 東近江市 愛荘町	兵庫県 神戸市 姫路市 尼崎市 西宮市 伊丹市 加古川市 西脇市 加西市 新温泉町	岡山市 岡山市 倉敷市 高梁市	高知県 高知市 南国市 四万十市	別府市 中津市 日田市 佐伯市 臼杵市 津久見市 竹田市 豊後高田市 杵築市 宇佐市 豊後大野市 由布市 国東市 日出町 玖珠町	
青森県 青森市 弘前市 八戸市 黒石市 五所川原市 十和田市 むつ市	茨城県 水戸市 日立市 土浦市 石岡市 下妻市 笠間市 取手市 つくば市	埼玉県 さいたま市 熊谷市 川口市 所沢市 本庄市 春日部市 戸田市 朝霞市 志木市 和光市 久喜市 蓮田市 幸手市 美里町 上里町 宮代町 杉戸町	東京都 千代田区 新宿区 台東区 墨田区 品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区 中野区 杉並区 豊島区 北区 荒川区 足立区 八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 東村山市 国分寺市 福生市 狛江市	新潟県 新潟市 長岡市 三条市 加茂市 見附市 上越市	岐阜県 岐阜市 大垣市 高山市 関市 美濃加茂市 各務原市	三重県 津市 四日市市 伊勢市 松阪市 桑名市 鈴鹿市 名張市 亀山市 熊野市 朝日町	京都府 京都市 長岡京市 八幡市 南丹市 久御山町	奈良県 大和郡山市 桜井市 生駒市 宇陀市 田原本町 上牧町 王寺町	山口県 下関市 宇部市 山口市 防府市 長門市 周南市	福岡県 北九州市 福岡市 久留米市 飯塚市 田川市 柳川市 春日市 大野城市 古賀市 うきは市 川崎町	佐賀県 佐賀市 基山町 上峰町	宮崎県 宮崎市 小林市 綾町 高鍋町 川南町
岩手県 盛岡市 花巻市	茨城県 ひたちなか市 常陸大宮市 那珂市	千葉県 千葉市 木更津市 松戸市 野田市 習志野市 柏市 市原市	東京都 中央区 台東区 墨田区 品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区 中野区 杉並区 豊島区 北区 荒川区 足立区 八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 東村山市 国分寺市 福生市 狛江市	富山県 富山市 高岡市	静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 熱海市 三島市 島田市 富士市 焼津市 掛川市 藤枝市 袋井市	三重県 津市 四日市市 伊勢市 松阪市 桑名市 鈴鹿市 名張市 亀山市 熊野市 朝日町	大阪府 大阪市 堺市 岸和田市 豊中市 池田市 吹田市 泉大津市 高槻市 貝塚市 枚方市 茨木市 八尾市 河内長野市 羽曳野市 門真市 高石市 東大阪市	和歌山県 和歌山市	徳島県 徳島市 阿南市	香川県 高松市 丸亀市 坂出市 善通寺市 観音寺市 多度津町	愛媛県 松江市 江津市 津和野町	鹿児島県 鹿児島市 鹿児島市 薩摩川内市 霧島市 始良市 中種子町 うるま市
宮城県 仙台市 塩竈市 柴田町	茨城県 小美玉市 茨城町 大洗町 境町	千葉県 千葉市 木更津市 松戸市 野田市 習志野市 柏市 市原市	東京都 中央区 台東区 墨田区 品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区 中野区 杉並区 豊島区 北区 荒川区 足立区 八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 東村山市 国分寺市 福生市 狛江市	富山県 富山市 高岡市	静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 熱海市 三島市 島田市 富士市 焼津市 掛川市 藤枝市 袋井市	三重県 津市 四日市市 伊勢市 松阪市 桑名市 鈴鹿市 名張市 亀山市 熊野市 朝日町	大阪府 大阪市 堺市 岸和田市 豊中市 池田市 吹田市 泉大津市 高槻市 貝塚市 枚方市 茨木市 八尾市 河内長野市 羽曳野市 門真市 高石市 東大阪市	和歌山県 和歌山市	徳島県 徳島市 阿南市	香川県 高松市 丸亀市 坂出市 善通寺市 観音寺市 多度津町	愛媛県 松江市 江津市 津和野町	鹿児島県 鹿児島市 鹿児島市 薩摩川内市 霧島市 始良市 中種子町 うるま市
秋田県 秋田市 横手市 湯沢市	栃木県 宇都宮市 足利市 小山市	千葉県 千葉市 木更津市 松戸市 野田市 習志野市 柏市 市原市	東京都 中央区 台東区 墨田区 品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区 中野区 杉並区 豊島区 北区 荒川区 足立区 八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 東村山市 国分寺市 福生市 狛江市	富山県 富山市 高岡市	静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 熱海市 三島市 島田市 富士市 焼津市 掛川市 藤枝市 袋井市	三重県 津市 四日市市 伊勢市 松阪市 桑名市 鈴鹿市 名張市 亀山市 熊野市 朝日町	大阪府 大阪市 堺市 岸和田市 豊中市 池田市 吹田市 泉大津市 高槻市 貝塚市 枚方市 茨木市 八尾市 河内長野市 羽曳野市 門真市 高石市 東大阪市	和歌山県 和歌山市	徳島県 徳島市 阿南市	香川県 高松市 丸亀市 坂出市 善通寺市 観音寺市 多度津町	愛媛県 松江市 江津市 津和野町	鹿児島県 鹿児島市 鹿児島市 薩摩川内市 霧島市 始良市 中種子町 うるま市
※石巻市(宮城県)・蓮田市(埼玉県)・中央区(東京都)・藤沢市(神奈川県)・伊豆の国市(静岡県)・長浜市(滋賀県)・福知山市(京都府)・美波町(徳島県)・宇多津町(香川県)・武雄市(佐賀県)・高千穂町(宮崎県)については、ウォーカブル推進都市ではないが、滞在快適性等向上区域を設定している。											合計	334都市

「Walkable City」 「WEDO」のポイント（私見）

「人間」の普遍的特性を踏まえた空間づくり、場所づくり

1. 街のスケール

モータリゼーションに過剰適応した都市空間を人間中心に組み立て直す。
新しい人と車、まちと車の付き合い方を考える。

2. アイレベル、グランドレベル

街を歩く人の目に入るところ（建物の1階、地面など）はパブリックな空間

3. 多様性と寛容性

（1）多様な用途（ミクストユース）

多様な人が集まり、共存できる空間

（2）人を集め、つなげるまちのインフラ

多様な人を受け入れる寛容性のある「場所」

街のスケール（Walkableの重要な視点）

○ 歩行者と自動車では適する街のスケールが違う

- ・ 自動車交通処理を優先した都市空間は、大きな空間と広い道路となりがち
→ 歩いて外出したくない
　　広すぎる空間は寂しさを感じさせ、とどまる気になれない
　　時速 5 k mの歩行者には時速 6 0 k mで走る自動車の近くは居心地が良くない
　　（歩車分離で安全であっても）
- ・ 小さいスケールの空間では、周りの建物や人々を見て楽しい
　　人と人の距離が縮まり、温かく濃密なコミュニケーションが生まれる

○ 2つのアプローチ

（1）都市構造の改善

通過交通のまちなか外への誘導・規制（外周街路整備、トランジットモール等）

（2）空間のリノベーション（大スケール空間に小スケール空間を組み込む）

車道の歩道化・広場化や屋台、カフェ、ベンチ等の設置

社会実験などLQC(Lighter Quicker Cheaper)アプローチが有効

アイレベル、グランドレベルの重要性（パブリックな空間の一部）

- 戦後以来の都市政策、まちづくりでは意識されていなかった

交通量処理など機能主義的アプローチ = 鳥の目の都市計画

- **ポイントは建物の1階部分（街と建物が出会うところ）**

- ・ **滞在空間**

立ち止まり、そこで時間を過ごせる機能

アクティビティは隅から始まる（建物前のベンチ、歩道のカフェ、広場の外周部）

- ・ **体験空間**

間口5～6mで5秒ごとの新しい光景と動き（ショッピングモールのセオリー）

ファサードに垂直線で凹凸を（長い水平線は歩行者には退屈）

- 1階部分が開かれていると、人々がゆっくり歩き、頻繁に立ち止まる

長い単調な壁面、無表情なシャッターは「立ち止まるな」のメッセージ

シャッターを閉める自由と外部不経済（周辺への悪影響等）をどう考えるか？

海外事例（ポートランド）

○全米一住みよいまちに選ばれているポートランド（Monocle Magazine, 2017）には、良質な都市空間を求めて優秀な人材が移住してきており、毎年約1万人人口増加している。（U.S. Census, 2015）

○ポートランドでは、建物の1階部分（グランドレベル）のうち歩道に面する壁面を透明にする規制が設けられている。リノベーションでは壁面の4割、新規開発では5割を透明としなければならない。

※同様の規制がサンフランシスコ（7割）、シアトル（6割）にも存在。

○壁面を透明とするための設計と施工に対して、合わせて上限200万円程度、市から補助が行われている。



PEARL DISTRICT/パール地区に見る演出



○道路にも、まちの賑わいを創出するためのデザインを導入

- ・建物隣接ゾーン
店が自由に活用可能
- ・歩行ゾーン
中心に交通機能を据え、賑わいを創出
- ・ファニッシュゾーン
道路構造物や路面電車の駅等を置き、空いている場合は店が活用可能

○ポートランドではディストリクト（徒歩20分圏程度の広さ）ごとに組織されるネイバーフッドアソシエーション（住民自治会）が、住民の意見を集約しまちの個性を生み出すプラットフォームとして機能している。

（出典）山崎満広氏資料等に基づき国土交通省都市局作成

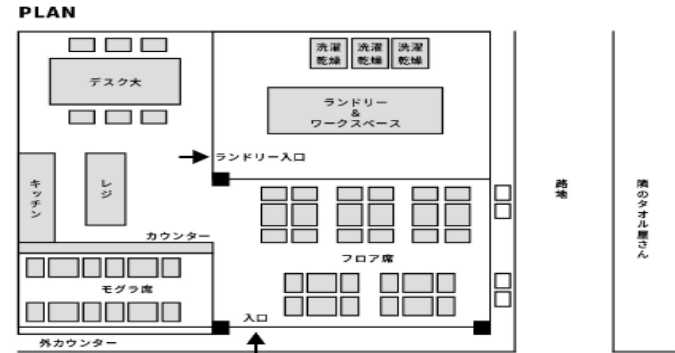
国内事例（喫茶ランドリー 東京 森下両国）



（写真提供=株式会社グランドレベル）

（株）グランドレベルが築55年の3階建てビルの1階をリノベーションし、洗濯機のある喫茶店を開業。老若男女誰にとっても自由に過ごせる私設公民館として、空間設計、インテリア、コミュニケーション、運営をデザイン。

「どんなひとにも、自由なくつろぎ」



多様な用途（ミクストユース）

○ 多様な用途のある空間には、多様な人々が集まる魅力（ダイバーシティ）

多様な人々の交流 → 多くの付加価値

多様な人々がいる光景 → まちの魅力アップ

多様な用途、多様な使い方の共存 → 「寛容性」のメッセージ

○ 多様な人々が集まり、つながるためには「地域」や「場」の寛容性も重要！

「寛容性」のある場が各地でつくられ、効果が実感されている

「施設管理者がクレームに弱いこと」が課題？

人を集め、つなげるインフラ（ベンチと芝生の効用）

○ ベンチを置けば・・・

「ここはあなたを受け入れる」という「寛容性」のメッセージ
ベンチに座ると「新しいまちの景色」が見える、「新しい出会い」が生まれる
まちでの「歩行距離」「滞在時間」「交流時間」が伸びる
ベンチに集まる「多様な人々の光景」がまちの魅力になる

○ 芝生のチカラ

「自由に入り、自由に使える」ことが「寛容性」のメッセージ
「居心地の良さ」を生み出すチカラ
「多様な人」を集めるチカラ
「まちを変える」チカラ

人を集め、つなげるまちのインフラ

○ 用事があってもなくても居てよい「寛容性」のある居心地の良い「場」に価値がある！

○ 人を集める力、つなげる力を持つ「寛容性」のある「場」は、まちのインフラ

芝生、ベンチ以外にも、図書館、カフェ、喫茶店、バル、書店、託児施設の待合スペース・・・

根本彰（2015）「場所としての図書館・空間としての図書館」学文社

図書館はそのコミュニティの構成員誰もが自由に出入りし、一定時間の滞在を許される場所である。そこに入った利用者はやろうと思えばきわめて多種多様な知的活動を行うことができるし、場合によっては何もしなくてもよい。新旧の資料が得られれば、最新の電子情報へのアクセスが可能にもなるし、各種の行事やセミナーに参加することもできる。これが地域的コミュニティあるいは機能的コミュニティいずれにとっても、場所としての図書館が果たすべき役割である。

別に目的がなくとも、そこにいることを許す公共施設というのは図書館以外には公園くらいしか存在していない。

エリック・クリネンバーグ（2018）「集まる場所が必要だ」藤原朝子訳（2021）英治出版

図書館は、誰かが気にかけてくれていると感じられる場所、誰かとつながっていると感じられる場所だ。それは彼らの支えになる。孤独な時は、とくにそうだ。

強い紐帯 (Strong Tie)、弱い紐帯 (Weak Tie)

○ 「弱い紐帯の強さ」 “The strength of weak ties”

1973年にスタンフォード大学の社会学者マーク・グラノヴェターが論文で発表した社会的ネットワークの概念。

就職先を見つける際、16%の人がひんぱんに会っている人からの情報で仕事を得たのに対し、84%の人がまれにしか会わない人からの情報で就職していた。

→ 「つながりが強く身近な人からの情報は自分の情報と重複が多く、つながりが弱くあまり身近でない人から新しく有益な情報は得られる」という仮説

○ 強い紐帯

継続的に同じものを共有、確認することから、価値観や行動規範が強化。災害対応などには有効。
一方で、排他的になり、孤立する団体になる可能性。あるいは地域を排他的で非寛容にする可能性。

○ 弱い紐帯

新たな情報や価値を得られる。強い紐帯同士を結び付ける機能があり、弱い紐帯と強い紐帯の結合、弱い紐帯同士の結合で強い紐帯に変化することもある。

○ 企業のイノベーション等のみならず**今後のインクルーシブな地域づくりで重要**

- 多様性と寛容性がある、インクルーシブな地域づくりには、**強弱さまざまな紐帯**を持つことが重要。
- **一つの絆に依存することの脆弱性** → 孤独・孤立問題や暴走老人問題
- 会話等がなくとも、人から認識されている、人から見られている等「**ごく弱い紐帯**」にも意味がある。（人間は、群れをつくって生存してきた。）

⇒ さまざまな紐帯が生まれる**場づくり**と**紐帯をつくり、育て、つなげる**取り組みが必要

海外事例（ニューヨーク・ブライアントパーク）

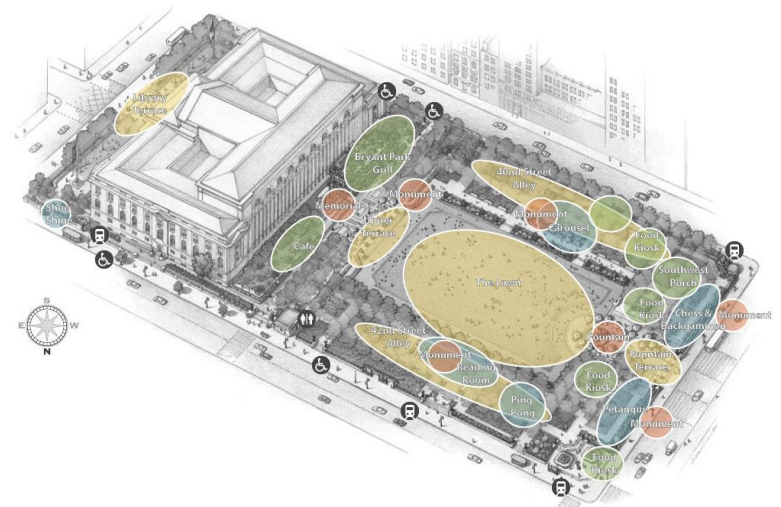


○マンハッタン島・ミッドタウンに位置するブライアント・パークは、かつては“全米一の麻薬密売スポット”と評されていたが、BIDにより再生
※BID：特定の地区で土地所有者等から徴収した資金により
エリアマネジメント活動を行う仕組み（団体）

○カフェ、レストラン、読書、ストリートチェス、メリーゴーランド、卓球、スケートリンク等、多様な主体による多様なアクティビティが24時間オールシーズン行われる場所となった。



○現在では店舗、イベント等から年間約20億円の収益をあげる公園に変貌した。



国内事例（姫路市）

駅前の緑地とサンクンガーデン



写真出典：「市民が関わるパブリックスペースのデザイン 姫路市における市民・行政・専門家の創造的連携（小林正美 編・著）」

国内事例（南池袋①）

南池袋公園

整備前



整備後



国内事例（南池袋②）

南池袋公園



国内事例（東京 京橋）

「TOKYO BENCH PROJECT」キックオフイベント（2019.10.27）
東京スクエアガーデンの公開空地と中央通り内の広場に20台のベンチとビッグベンチを約1ヶ月設置



2021.3.29 ベンチ設置セレモニー
イベント終了後も設置を望む声に応え、ベンチのデザインなど関係者の努力で実現した恒久設置



（写真=東京ビエンナーレ）

国内事例（山口県周南市立徳山駅前図書館①）

整備前



旧駅ビルは昭和44年に開業

2階以上が「駅ビルトークス」という商業施設（平成12年に閉鎖）

その後2階以上を市が買い取り、市民交流センター（公共施設）として運営

平成17年2月 徳山駅周辺整備構想

平成20年 徳山駅周辺デザイン会議設置

平成25年11月 新たな徳山駅ビル整備基本構想

平成26年9月 徳山駅南北自由通路、橋上駅舎供用開始

平成28年8月 CCCを指定管理者に決定

平成30年2月 周南市立徳山駅前図書館オープン

整備後



国内事例（山口県周南市立徳山駅前図書館②）

賑わい交流施設の施設構成

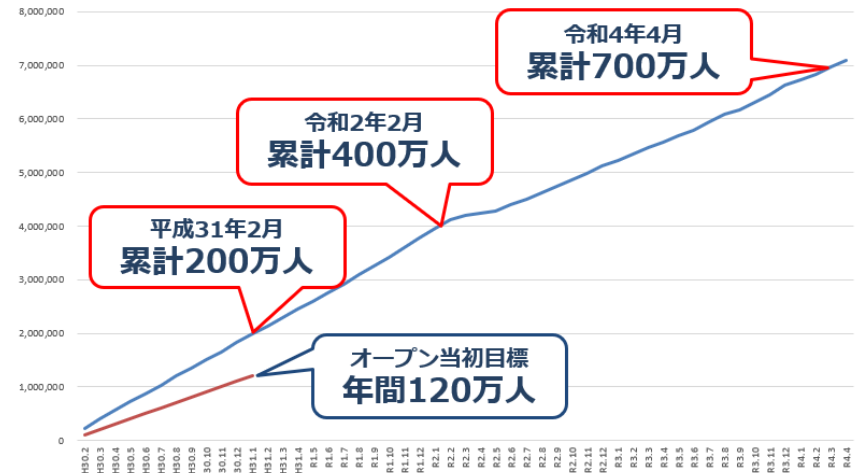


年中無休 9:30～22:00

蔦屋書店、スターバックスコーヒーは 8:00～22:00

vec は 10:00～23:00

賑わい交流施設来館者数



国内事例（山口県周南市立德山駅前図書館③）



国内事例（オガール紫波）





民が図書館を作り官に売る

図書館の前の芝生広場で司書さんが紙芝居







オガールアリーナ

完全民間事業

バレーボール専用体育館

2022年までの国際大会で使用する事が決まっているフランス製の樹脂床を導入し、トップチームから地域アマチュアまでのバレーボールチームの合宿を誘致

オガールアリーナ



オガール保育園

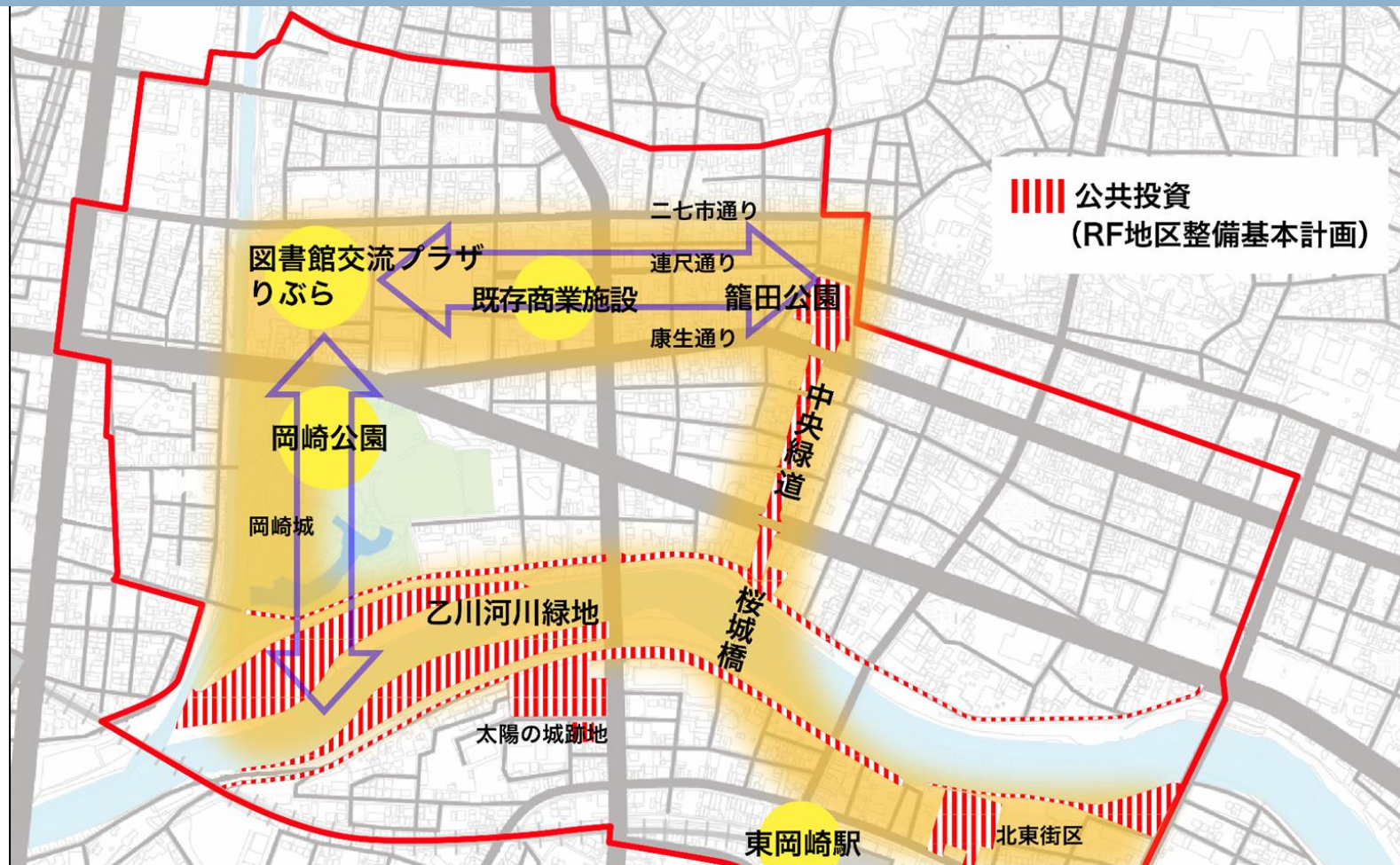


小児科 / 病児保育



国内事例（岡崎市QURUWAプロジェクト）

QURUWAとは：つくりかた



乙川RF地区の多様な魅力を味わうことができる約3kmの主要回遊動線。
かつての岡崎城跡の「総曲輪(そうぐるわ)」の一部と重なること、
また、動線が「Q」の字に見えることから「QURUWA」と命名。

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



オトマルシェ@乙川

08:58:32

QURUWAプロジェクト: 桜城橋橋上広場・橋詰広場



橋上広場の日常@桜城橋

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



日常@桜城橋³²

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



平日の日常@中央緑道

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



週末イベント時@中央緑道

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



スコシズツ・マーケット@籠田公園

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



障がい者もまちに@籠田公園

QURUWAと、PUBLIC LIFE

—豊かな公共空間のある暮らし—



QURUWAと暮らす@連尺通り

これからの地方創生まちづくりに必要なものは何か？

「デジタル技術も活用したネットワークづくり」＋「ウォーカブルで寛容性と多様性のある場所づくり」を公民連携で進める。

→ より多様性のある多くの人材によるリアルな質の高い交流、対話、つながり
より多くの共感が生まれ、イノベーションが生まれ、Well-beingが実現。

○ 人間中心の居心地が良い場所をつくる

- 街のスケール
- アイレベル・グランドレベル
- 寛容性と多様性

多様な用途（ミクストユース）と人を集めてつなげるインフラ

○ 強弱さまざまな紐帯、絆をつくる

- 強い紐帯の代表は家庭と職場。さまざまなサードプレイスが重要な役割。
- 地域、個人の事情に合わせたオーダーメイドが基本。
- オンライン、SNSも有効なツール（例：産後間もない母子など外出が困難な方）

これからの地方創生まちづくりに必要なものは何か？

○ 外からの開発圧力や床需要に頼らずに**エリアの価値**を高める

- デザインは「**ランドスケープ**」「**パブリック空間**」「**建築物**」の**順序**で
- コアとなる「**パブリック空間**」**再生を先行**させ、そこに投資を重ねる
- 需要から必要な床面積、可能となる**投資を逆算**する

○ **アート思考とデザイン思考の重要性**

➤ **アート思考**：自分を起点としたオリジナリティのあるアイデアと行動を創り出す

- ・ まちづくりの起爆剤
- ・ 多くの人を巻き込むエネルギーを持つ

➤ **デザイン思考**：顧客を起点とした課題解決のための最適な方法を創り出す

- ・ アート思考の取り組みをゲリラで終わらせない
- ・ エリアをどうしていくのか目標、ビジョンがないイベントは自己目的化して疲弊しがち
- ・ 行政とパブリックマインドある民間が、取り組みの成果や環境変化を踏まえて課題解決の道筋を描き、進化させることが必要

今後の検討課題

「まちなか」から「ネイバーフッド（日常生活の身近なエリア）」への展開

○ 日常生活を支える地域生活拠点の形成

- 住んでいるところから**日常的にアクセスできるところにウォーカブルでつながりをつくる力を持つ場**をつくる。 → ネイバーフッド・コミュニティの形成
- 拠点間の公共交通の運行に一定の頻度を確保できる移動需要をまちづくりで創り出す。拠点周辺をウォーカブルにすることは拠点間の公共交通利用増加に貢献。

○ 団地再生等でみられるように、**住宅自体にウォーカブルでつながりを作る力のある場や空間**をつくっていく。

（事例）フロール元住吉（神奈川県住宅供給公社の賃貸住宅の建替プロジェクト）

- ・ 「守人（もりびと）」：入居者のコミュニティも見守る管理人、地域交流スペース「となりの。」の運営者でもあり、その運営にあたっては、地域ニーズを調査し、カフェ、レンタルスペース、小商いボックス等を運営
- ・ 第2のリビングルームとして入居者の方が自由に使える「シェアラウンジ」
- ・ 地域交流スペース「となりの。」：1階共用部にあるコミュニティスペース。フロール元住吉にお住まいの方、地域にお住まいの方、または偶然立ち寄った方、誰しもが自然と立ち寄れる場所を目指し、守人が関わって各種サービスを実施。

フロール元住吉（神奈川県住宅供給公社の賃貸住宅の建替プロジェクト）



集合住宅と地域の境界面にはベンチ、カウンター、軒下空間を設置



シェアラウンジ



クリスマススワッグづくりWS



ビール試飲おしゃべり会

ご清聴ありがとうございました。

本講演資料は講演者個人の見解であり、講演者が現在所属する組織、過去に所属した組織の公式見解ではありません。